

(議長)

日程第4、一般質問を行います。

本定例会の一般質問は、お手元に配布のとおり、8名の議員から通告がありました。通告順に従って順次これを許可いたします。

まず、室井議員の発言を許可いたします。

室井議員。

「室井議員」

おはようございます。

まず第1問から入りたいと思います。

照井町長が北の江の島構想を唱えてからですね、私は何度もこの議場の場で質問してまいりました。しかしですね、今日に至っても全体像が見えていない。真剣勝負ですね、今日は質問させてもらいますので、答弁よろしくお願ひしたいと思います。

まずですね、最初に、基本的な確認としてですね、構想の最大目標はなんですか。そしていつまでにですね、議会や町民にですね、この構想の全体像をですね、明示するんですか。これ明らかにしてもらいたいと思います。私は、北の江の島構想にですね、賛成の立場から、町議に出ようとしたですね、24年前から、かもめ島周辺にですね、賑わいを作らなきゃならないということは、私ずっと一貫してやってきました。そして、その事業のですね、北の江の島構想と具体的な事業が出た以上ですね、実施する場合には、こうしたらどうですかという提案を示してですね、質問してまいりました。本年3月定例会においてもですね、私の一般質問並びに総務産業常任委員会の意見書の中にですね、詳細提案を申し上げておりますので、地区を含めた全体構想の提案は控えますが、地区周辺の諸課題解決策と連動した構図でなければならないと私は強く認識させるものであります。その明快な答弁を求めたいと思います。

構想から事業着手に至るまでですね、課題整理をフローチャートで示してですね、提案したのもその一つであります。

江の島構想は単に賑わい、イベントを実施するだけではないと、私は強くですね、強く認識しており、後世へ継承できるですね、歴史性を取り入れた本質的なですね、賑わい空間を作るべきと私は思っております。

その辺についてもですね、答弁を求めたいと思います。

また、江の島構想の一環としてですね、クレー重機を使用したのぼりが、その耐久度判断をどう認識されておりますか。それも併せて返事をお願いしたいと、答弁願ひたいと思います。

なお、昨年度の経費はですね、決算報告書の中に37万7千円と明記されておりますので、その質問は省略させていただきます。

第1問の結びにですね、極めて重要なことだと思ひます。北の江の島構想が、ある程

度ですね、コンクリート化されたものでないですね、1年前倒しで行う、第6次総合計画、総合戦略、都市計画マスタープラン、立地適正化計画にですね、と私は連動できないんじゃないかと、私は非常に懸念しております。江差町からですね、それらの上位計画に対して、あの地区はこういうふうにしたいんだということをですね、明示無い総合計画なんて絶対あり得ないと、私は認識するものでありますから、答弁願いたいと思います。

(議長)

はい、町長。

「町長」

室井議員からの北の江の島構想に関し、大きく5点にわたってのご質問でございます。ご質問の内容については、まとめて答弁すべきと判断した項目がございますので、あらかじめご了承願います。

初めに、1問目の、構想の最大目的といつの時期までに議会と町民に全体像を明示する考えかということと、2問目の地区周辺の諸課題解決と連動した構想でなければならないといったご意見、さらには5問目の構想がある程度コンクリート化されなければ、次期総合計画や総合戦略、都市計画マスタープラン、立地適正化計画等との連動できないのでは、との趣旨のご質問であります。北の江の島構想の最大の目的は、かもめ島の景勝や史跡等の自然環境や、歴史文化、隣接する海の駅開陽丸、江差港マリーナ等、江差ならではの資源を活用し、古くて新しいまち江差を代表する観光の拠点として、町民や観光客が集う新たな交流人口の拡大による、稼ぐ力、儲ける仕組みを構築し、地域の活性化を目指すところにあります。

次に、構想の全体像を議会や町民に示す時期と、総合計画をはじめとする各種計画との連動についてでございますが、本年の第2回定例議会にて議決頂いた、江差町総合計画策定条例第6条の規定に基づき、個別あるいは分野別の各種計画との整合性を図るべく、現在調整作業を進める準備をしているところであり、これらの整理と財政協議等を踏まえ、年度内には一定の全体像を示す予定となっております。なお、本年3月の室井議員からのご提案、また昨年6月の総務産業常任委員会からの報告に記された諸課題もでございますので、全体像を示す前に議会とも十分意見交換を行ってまいりたいと考えておりますので、ご理解願えればと思います。

次に、北の江の島構想は、単に賑わいイベントを実施するのではなく、後世へ継承される歴史性を取り入れた本質的な賑わい空間を創出することが、重要とのご指摘でございますが、本町の歴史や文化、経済の発展といった礎を築いてきたかもめ島には、本年3月議会において、室井議員から提供された資料にもあるとおり、景観、景勝は元より、現存する北前船係船柱跡や巖島神社等、様々な魅力にあふれ、町のシンボルとし

て、また、町民の心の拠り所として大切にしていかなければならないものと認識しており、古き良き文化や資源と新たな魅力を融合した空間となるよう努めてまいりますので、ご理解願いたいと思います。

最後に、ニシンのぼりの耐久度と経費に関してでございますが、イベント等で掲揚するのぼり旗の倍の厚さで、耐久度も高いトロマットという素材となっております。一方で、掲揚にあたっては、前日の予報で風速10メートル以上の場合は中止をする。あるいは、当日もクレーンに380キログラム以上の負荷がかかった場合等は、一時中断するなどの判断基準を設け、安全対策を行っております。

今年度の経費でございますが、北海道江差観光みらい機構へ一括委託しており、実績として5回掲揚し、総額56万3,760円となっております。

(議長)

「室井議員」。

「室井議員」

いいですか。はい。再質問させていただきます。

町長答弁の中にですね、私も1から5まで全部整合性、連携したですね、質問書書いてないので、まとめて答弁したことは、それは理解しますのでですね、それはそれでよろしい。

それですね、町長ですね、私も考えてる中でですね、答弁にもありました。要はあの周辺の歴史性を守る。ね、それと最終的にはあの開陽丸、あのまま放置しておいていいんですかと。だいぶ劣化してますよ。そういうものですね、改修費、改修をやる場合はですね、やっぱりアプローチ事業として、あの周辺の全体構造が必要なんですよ。今考えているのはたぶんですね、個別のですね、個別の改修、個別の対応しか考えてないと思うんですよ。これは全て町の負担が大きくなりますよ。せいぜいやるったら交付金事業かですね、社会資本総合整備交付金事業を使って、個別に対応していくってことしかできないと思うんですよ。私の考えていうのはですね、要するに、地区周辺の長年のですね、課題があります。国道の急カーブ、交差点改良をどうするんですか。あのままで良いとおもってますか。それと青果市場、あのままで良いんですか。漁協の建物使っていない旧事務所、倉庫、あのままで良いですか。それらをですね、全部ですね、踏まえたですね、大きな構想を作っていないとですね、国なりにできませんよ。個別な事業でできるでしょう。役場の対応で。各省に要請すればいいわけですから。こういうこと直したいです。全体像を作ってますね、江差町の財政をなるべく少なくしてですね、国のお金を、補助金を有効に使ってますね、あの周辺を整備していくというのが、私の考えなんです。だからバラバラ事業をやったら駄目なんです。まず全体像を作ってください。その詳細は後でも良いんです。それは色々なこと、相手もありますから、まずこういうふうなものをやりたいと全体

像を作ることが、極めて大事なことだと思います。

さらにですね、平成29年の第1回定例会におけるですね、町長の町政執行方針の中で、戦略的なまちづくり推進の主要施策の一つとして、北の江の島構想の推進を話されました。それに基づいてですね、外部コンサルタントへ200万円ですね、予算を使って委託され、成果品も提出されております。あの江の島構想、どこへ行ったんですか。私に言わせれば、ぷらっと江差の改修工事じゃないですか。あれが江の島構想だという認識持つてるんですか皆さん。なぜ皆さんがね、おかしいと唱えないんですか。コンサル任せは駄目だと言ってるんですよ。皆さんの方が知識あるんだよ。江差のそういう実態を良く分かって。コンサルタントに委託してもですね、町はこういう風に考えているんだと、江差町がきちっと示すべきでないんですか。あの成果品、有効に活用されているかいらないか、ちょっと答弁を願いたいと思います。

それと第6次総合計画、私アンケート調査見ました。しっかり見ましたよ。非常に厳しいこと書いてますよ。江の島構想で。時間の関係上ですね、今私は、それはしませんけど。かもめ島をですね、北の江の島構想に、かもめ島と北の江の島構想のこと、多くの記述ですよ。マルバツじゃないですよ。意見を述べてますよ。こういうものをどういう風にして利用するんですか。ただ、戸棚にしまっておくんですか。こういうことはしっかりですね、しっかり分析して、少しでもその方向性にですね、行くというですね、考え方がなきゃ駄目でないんですか。コンサル任せでは駄目です。絶対駄目です。皆さんが連携してですね、若い係長、係、主幹、ね、課長入って、どうすると。こういう問題あるぞと。これを一つずつ解決していくという、その位の意気込みがないんですか。あったら教えてください。副町長、あなたは事務方の最高責任者だよ。まとめるのは貴方なんだよ。ちゃんと答弁して下さい。

(議長)

最初はまちづくり推進課長。

「まちづくり推進課長」

室井議員の方から、他項目渡って質問がありまして、ちょっと私のメモの中でちょっと抜けてたらご指摘頂きたいと思います。

まず一つ目です。歴史性の伝承ということでございますが、江差の礎を築いたかもめ島、議員もご承知のとおりですね、天然の良港として、また江差の交易の中心として、経済文化の発展に大きく寄与したものと考えております。北の江の島構想は、こういった歴史的な背景をもとにですね、かもめ島を中心に往時の賑わいを彷彿させる新たな交流の拠点として、また、交通の拠点や物流の拠点として再生を図り、しいては業起こし、地域で稼ぐ儲ける仕組みをハードソフト両輪から築くことを念頭に置いているということでございます。

次に開陽丸記念館への関係ですが、これまでも議会や決算特別委員会においてですね、ご質問を受けております。現在、財団側で当時の設計にあたった株式会社ドーコンさんですね、コンタクトを取りながら、今後の修復に関する調査等について検討を行っているということを聞いております。今後、財団側から示された計画をベースに、町としても協議に参画してまいりたいと考えておりますので、ご理解をお願いします。

それと、次ですね、国道の、国道交差点改良等についてでございます。周辺の国道の交差点改良、あるいは周辺の老朽施設等につきましては、長年の懸案課題ということでございます。そういった中で、総務産業常任委員会からも報告を受けておまして、これらにつきましてはですね、先ほどの町長の答弁にもありますが、今年度内に一定の事業の全体像を示す予定であり、現在町が策定した構想と議会から報告された内容の整理。また、その中で意見が付されている、先ほど申し上げました老朽施設、アクセス、そういった課題あるいは南ふ頭の利活用方策、こういったものを庁内にて今現在協議しておりますので、長年の周辺の諸課題、こういった解決策につきましては、年度末に皆さんにお示ししたいと思っておりますので、今少しお時間を頂きたいと存じます。

それと、平成29年度に作成された江の島構想について、成果品はどのように使われているかということでございますが、この間、庁内の市街地活性化検討委員会等で構想を具現化するための検討材料として活用しております。また、成果品に対する評価についてでございますが、この構想は、これまで町づくり懇話会や市街地活性化検討委員会等で示された意見。また、平成25年に提案されたドーコンさんで作られたハード事業のもの、あと庁内の職員で築き上げたソフト事業、そういったものを参考にしながら構想を練り上げたものでございます。なるべく皆さんから出された意見をですね、削除することなく、まずもって限られたエリアの中に、その意見を散りばめたというのが構想でございます。それをこれからですね、種差選択して事業実施につなげていくというものでございますので、今後基本計画あるいは実施計画の中でそういったものが整理されてくるんだろうと思っております。

それと、この成果品につきましては、実はそれぞれの事業実施にあたっての補助金のメニューもある程度整理されております。その中には、都市計画マスタープランの策定あるいは立地適正化計画、そういった策定の基ですね、こういった補助メニューがありますよというか、そういう導かれているものもございまして、今後の江の島を進めるための事務の参考にして、一助になっているということで捉えております。

それと総合計画についてどのように、今後ですね、この意見を吸い上げていくかということでございますが、総合計画につきましては基本構想、基本計画、そして実施計画といった3つの層から構成されておまして、まずは基本計画の中に、南ふ頭の賑わいの創出あるいは北の江の島の推進といった項目が盛り込まれるのではなかろうかと思っております。これは今現在、策定審議会の委員の皆さんが議論をこれからしていく中なので、私が踏み込んだお話しはできませんが、イメージとしては、基本計画にまず構想を載せていくと、そ

して実施計画これが個別の計画になりますが、実施計画の中でそれぞれのアクションプランをしっかりと搭載していく。これは10年の中でどこまでやり切れるかという問題もありますが、先ほど室井議員が言いました、場面的な事業にならないようにですね、一体的な、あるいはストーリーを持ったですね、整理をしながら、この江の島の推進をしていきたいなと思ってます。

以上、私のメモで記されたところで、もし抜けているものがあればですね、ご指摘願えればと思います。よろしくお願いいいたします。

(議長)

はい。副町長。

「副町長」

はい。全体の答弁は今担当課長から申し上げましたが、私の方からは、総合的に申しますか、年度末までお示しをするということには、これは変わりがございませんし、その意欲でやらなきゃないんですが、決まったものを示すということには当然なりませんので、当然来年度の予算ヒアリングの時期の前後を含めて、最低でも2回位全員協議会の場になろうかと思いますが、キャッチボールをさせて頂きたい。そういう形で担当課長を通じながら全課に周知をして、この作業を進めていきたいと、これが一つでございます。

それから、一番、まあ、室井議員の懸念されてる前の部分から、ピンポイントでバラバラでやってる部分。これは確かにおっしゃる点、反省する部分がございますけども、改めて私もその賑わいの周辺だけではなくて、入口の部分からのトータルのもの。それで、来年度、来年の年度末までに示す部分が全て100%盛り込むことは中々難しさもあるわけですが、例えば道路改良に絡めた分でどう保障されるのかということも含めてのご意見だろうと思いますんで、社文なり室井議員の提案した部分も、それからコンサルにかけてこれが良いだろうなというものも当然ありますけども、それらも入れながら、役場の全課の課長、主幹、それから係長も含めた中で、市街地活性化の部分の議論をですね、とにかく一生懸命やらせていただきます。以上でございます。

(議長)

いいですか。はい室井議員。

「室井議員」

あのね、こういうことなんだよ。副町長ね、頭のがじっとね認識しなきゃ駄目だ。ね。私が言うのは、ね、この国道からかもめ島まで含めたね、そこをどう歴史性を活かして、ね、そして色んな賑わいも良いですよ。どう活用するがという全体像を作ってね、それをね、国なりに要請するようなね、ね、そういうものを作ってほしいんだということね、

言ってるんですよ。それがね、個別のですね、小さいね、改修だとかなんとか営繕みたいなことを、今やらなくても良いということは、私は前の議会でも言ってますよ。全体像を作ることが大事なんだと。こういう風にしたいんだと。そのためにはですね、若い職員でも係長でも主幹でも良い、ね。町長のあまり顔をね、助役の顔を見るような、そういう人方を入れないで、ぎっくばらんにね話してね、どうすると、あそこを賑やかするにはどうしたらいいんだってというようなね、ことを取り組んでもらいたいと思いますよ。

それと、出崎課長。答弁苦労していると思う。ね。私ね、これあなたに初めて言いますけども、いいですか。私、開発建設部に行ってきましたよ。南ふ頭、荷捌き用地、ね。1万ヘーバー。この評価額1,300万ですね。なんて言いました、ね、公共の用地だから、民間が行ってあそこで売店やって商売することはできませんけれども、ね、町でこういうふうに使うんだと、いう構想があれば良いですねと。私は更に町の財政を考えてですね、いや、全部要らないよと。少しでもね、安く売ってくれないかと。坪4,500円ですよ。ここに書いてますよ、資料で。何も私が鑑定したわけでないですから。そういうことを含めてね、全体をね、考える。本当に青果市場をどうするんだ。あの倉庫をどうするんだ。そういうことを考えるために、魅力あるですね、よその町に、いいですか。負けないうためには、あの国道のカーブからですね、アネロイド気圧計、折居社を含めたあの周辺からですね、かもめ島に行くことが非常に全体構想を考えるってことが、私は国に要請する場合、もの凄く有利だと私考えてますよ。これ担当次長さん、なんて言いました。私もかもめ島に何度か行ってきましたと。北前船の係船柱の跡がありますねって言ってるんですよ。役場、町からですね、国なり道なりに要請する、要請するものが無い。言葉しかない。これじゃ絶対進まないんだ。副町長そう肝に銘じて予算をいっぱいかける必要ない。今3月までと言いましたよね。これとんでもない話ですよ。3月までにマスタープラン、総合計画できるのにですね、なぜ江差町がここをこういうふうにしてくれって要請、そっちの方が先じゃないんですか。3月までにやるったら手遅れですよ。12月議会位までに、こういうふうな構想を持って、コンサルにこういうふうに要望したいと、要望しますという、そういう方法でなかったら具体的に動かないんじゃないんですか。私は懸念してますけどその辺の見解について、答弁願いたいと思います。

(議長)

はい、副町長。

「まちづくり推進課長」

まちづくり推進課長。

(議長)

はい、まちづくり推進課長。

「まちづくり推進課長」

室井議員の方から少しスピード感をもってというお話も今ございました。先ほど私も答弁しましたが、今皆さんに、平成28年に作られた江の島構想というのは、マリーナアイディアの方で一定の整理をしていくということ。そして、昨年6月、総務産業常任委員会から報告を受けたものは、南ふ頭を一体的に使って、また国道からのアクセスを整備してということで、昨年の議会の中でもここが町と議会の報告を乖離している部分ですよということは、私の方からも答弁させていただいております。今、先ほど私がお話ししたのは、そういった乖離している部分の交通整理というんですかね、それを今庁内の方で行っているということが一つでございます。

それと市街地活性化委員会の中でも、このまま南ふ頭用地を何も使わなくても良いのかという議論も一方でされておりますので、その辺はですね、少し私どもも内部で整理をさせていただいて、先ほど副町長がご答弁した通り、一定のペースって言うんですかね、方向性が出た段階で、議会の皆さんともですね、少しご協議をさせていただきたいと思えます。

いずれにいたしましても、今年度末には一定の全体像を示しながら、その全体像、そういう絵に沿ってですね、今この場所が先行して着手しましたよ、こちらはこういった意味で少し協議してますよとか、そういった見える形、可視化って言うんですかね、そういうものをちょっと作り上げていきなないなと思っておりますので、ご理解願いたいと思えます。

(議長)

室井議員2番目の質問から。

「室井議員」

宿泊施設について質問したいと思います。

今定例会に追加議案として提案されたまちづくり推進交付金制度を利用し、一般会計、財政調整基金の総額約2.3パーセントにあたる5,814万円が予算計上されております。私はまちづくり推進交付金制度については、やる気のある既存事業者や今日の停滞している江差町の社会経済環境を少しでも向上させたいと願うですね、行政のそういう考え方については、私は理解し賛成の立場からですね、具体的に質問に入りたいと思えます。

まずですね、既存旅館を含めた宿泊事業者は様々な困難を乗り越え、今日までですね、種々努力し営業を継続しておりますが、このような事業者に対する江差町の支援策とは一体なんなんですか。片方では、ほしい、整備された宿泊施設が欲しい。新しいところが来てくれればいい。今のまんまじゃ駄目だと言いながらですね、事業者を守り、継続できるそういう環境整備をどうして図るのか。行政の最大課題の、私は一つであると認識してお

ります。産業振興課所管の宿泊施設改修補助として、平成27年度から3か年間継続し、総事業費の約44パーセントにあたる1,457万が交付金事業として支出されております。しかし、3か年でこの補助を打ち切りしたのは何故なんですか。既存業者からもう要らない、改修する場所が無い、不要である等の申し入れがあったのかないのか。ここはきちっと答弁して下さい。今後また、今後検討すべき課題だなという認識があれば、その考えについても伺いたいと思います。宿泊施設の整備、拡充に対する町民要望、多くあることは私も十分認識しております。しかしですね、今、懸命に頑張ってますね、長年営業を続けてこられた、そういう既存の事業者がですね、経営困難に至るような環境づくりにですね、町民の多大な税金を投入した事業はですね、私は行うべきではないと、私は考えます。私は、新たな宿泊事業者の設立を絶対駄目だとは言いません。しかしですね、既存宿泊事業者との話し合い。両者の合意形成、協同経営、協同支出などの既存事業者優先制度を確立したうえで、そういう制度を検討に入るべきだと思いますが、明確に答弁を願いたいと思います。ここは明確にして下さい。

(議長)

はい、町長。

「町長」

室井議員の2問目にお答えいたします。

既存宿泊施設を経営される事業者に対する支援策についてのご質問でございますが、江差町を訪れる観光客数は平成10年で54万人に対し、平成30年は28万人と、この20年間で5割程度減少しております。また、宿泊客数も同様に大きく減少傾向にあります。この間、多くの宿泊事業者が宿を閉めるなどをした結果、現在民間が経営する宿泊キャパ数は8事業者で275人となっている状況にあります。観光スタイルの変革や既存宿泊施設の老朽化に加え、経営者の高齢化等、既存宿泊施設の経営者が多くの課題を抱え今に至っているものと、町としては推察するものであります。

町といたしましては、これらの現状を踏まえ、また平成28年3月に開業した北海道新幹線開業による観光誘客による観光関連産業の振興を図るべく、江差町宿泊施設改修支援事業を実施することといたしました。実施にあたっては、町内に宿泊された方々からの意見や宿泊施設経営事業者の施設改修ニーズ等を調査したところ、その当時事業費で総額2千万円程度の改修要望が出されました。平成27年度から3年間において、既存の民間宿泊施設を対象とし、客室やトイレ、浴槽の改修から照明、エアコン、Wi-Fi機器の設置等、施設の改修、新設に対する助成を、助成事業を実施いたしました。初年度は宿泊客が直接接する施設の改修に限り実施いたしました。2年目以降はインバウンド対策、バリアフリー改修並びに外壁や屋根等の外観の改修等の補助対象施設を拡大し実施いたしました。3年目の実施にあたり改修要望の聞き取り調査を行なった

ところ、要望が少なくなったことや、本事業の活用事業者が概ね一巡したこと。また、当初の事業要望額の2千万円を達成できたこと等から、3年目の事業実施を最後とする旨を各事業者にもお伝えしたうえで、事業申請をして頂きました。結果的に3年間で8事業者から15件の応募があり、対象事業費3,300万円に対し、1,457万円を助成したものでございます。

一方、厳しい経営環境に置かれているのは、宿泊事業者ばかりではなく、商店街の小売店や飲食店等、多くの小規模商工事業者の方々が、厳しい環境に置かれているものと考えております。これらの町内企業の経営を少しでも改善し、江差町全体の経済の循環を図るためにも、外貨を稼ぐ仕組み作りが急がれるところです。その大切な取り組みとして、通過型観光から宿泊型観光への転換を目指し、より多くのお金を落とすようにすることが必要であると考えています。既存宿泊施設も新たに経営に参画される施設も含め、江差町内の宿泊客数全体の底上げを図るため、観光担当課と一緒に宿泊事業者との話し合いの場を設け、具体的な要望や意見を吸い上げ、関係機関とも協議のうえ観光客誘致や新たな支援策について検討してまいりたいと考えておりますので、ご理解願えればと思います。

最後にまちづくり推進交付金、とりわけ宿泊施設整備促進事業に関するご質問でございますが、議員ご承知のとおり、本交付金は江差町まち、ひと、しごと創生総合戦略を加速、進化させることを目的に、平成28年度に創設したものであり、町外からの宿泊施設の誘致といった視点と、町内事業者への新たなチャレンジを生み出す視点をもとに制度設計されておりますが、本年度末をもって第1期の総合戦略が終了することから、町といたしましても本交付金の今後の有り方について検討することとしておりますので、その過程において、種々議論を重ねてまいりたいと考えておりますので、ご理解願えればと思います。

(議長)

室井議員。

「室井議員」

今後ね、検討するということですね、私は本当に検討してもらいたい。それは、覚えておいて。ね。今頑張ってるね、やってる人方って何十年もやってきているそういう事業者。それは小売店もそうですよ。みんなそうですよ。やってきている人方ね、なかなかね遠慮してね、ね、町のことも考えながらね、そんなに多く改修したくてもね、私は要請ができない、そういう傾向が私は、全部とは言いませんよ。あるんですよ。そういうことをやっぱり認識しないと、町民との間の距離、縮まりませんよ。そこちゃんと理解してもらいたいですよ。非常にそこは厳しく見てるよ町民は。ね。私は財政調整基金、あとの質問、23分しかない。言いますけど。財調を取り崩すなどは私は言ってません。でも2.3パーセントでしょ、一般財調の、ね。5,814万というのは。そういうことを今後やってい

くということは、いろんなね、平等に、平等にやってもらいたいということなんですよ。皆さんはね、そういう事業者と本当に腹割って話しをしたことありますか。役場の課長さん、係長さん、そういう立場で話をしたら駄目なんです。休む時間もなく、ね、頑張っ
て朝早く4時3時起きて、頑張ってるそういう人方をね、やっぱり少しでもね、支える。これ宿泊施設だけじゃなくて、そういう気持ちがある、行政になかったら、町民と行政の間、縮まりませんよ。そういう不平不満があると私は認識しておりますので、ね。田畑副町長さん、あのね、ざっくばらんに言う。やっぱり町民の中に入って行って、いいですか、入って行って、役場の課長さんじゃなくてもいい。私は江差町の住民の田畑明です。そういうふうに入って行って、やっぱりね、全部全部やってけれということはない。でもそういう声を少しでもね、吸い上げる、そういう姿勢をきちっと持ってもらいたい。ということ
を申し上げたいと思いますけれども。これは再質問これで終わりますので、終わりますので、そこだけは答弁きちっとして下さい。

(議長)

はい、副町長。

(副町長)

今室井議員から、既存事業者が3年間で終わった部分は今町長が答弁した、そういう経過をきちっと踏まえて、段取り踏んでやってきたと、これがまず一つ。

で、ま、少しま、これ簡宿の関係も含めて、宿泊事業者と町長、私も関係課長も2度、色々接触をしたわけですが、一つには、今までは組合もまとまりのない状況もあったのも事実であります。私からも、町長からも、町は町で支援をしていきますよ。ね。観光客のために連れてくる、そういう手段。ただ、観光客でない工事従事者の宿泊も多い、そういった状況も把握したうえで申し上げておりますが、やはり事業者も汗をかいて、きちっとやっぱり町の中の経済に貢献することを考えてほしいということ、直にやり取りをしました。最後に町長が今回の室井議員の答弁に言ったとおり、これを機会にいわば観光の所管と商工、いわば宿泊事業者との意見交換、やはりきちっとした状況の中で、お互いにできる範囲での、この街中にどうやって宿泊者を多く泊めるか。それからオフシーズンを特に、冬の間どういう工夫をしたら泊めれるかとか、こういったところもですね、やっていきたいというのが、照井町政が今回答弁申し上げた状況でございますので、そういったことをしっかりと今答弁した内容で進めていきたいと、このように思っています。はい。

(議長)

いいですか。はい。

「室井議員」

いいですか。3問目に入って。

(議長)

はい、3問目。

「室井議員」

まあこれもですね、要するに町民のですね、感覚とズレはあってはならないという考えに基づいてですね、3問目を質問したいと思います。

北海道江差観光みらい機構の運営支援について質問したいと思います。平成31年度予算において、同機構への町の補助金は、ふらっと江差への運営補助6百万円と合わせて3,276万円であります。支出の部では、人件費がですね、2,999万円、これ不思議ではない数字なんです、が、町補助金の約、人件費がですね、91.5パーセントが人件費補助であります。今町長もね、小売店、旅館だけでない、宿泊施設だけでないって言いましたとおり、町内の小規模事業者はですね、事業を継続する。設備を更新したい。備品も購入したいという、そういう前向きな姿勢がありながらもですよ。それらに対応すべき人件費の負担が大きく重荷になってですね、家族で必死に頑張っている姿ってのを見てますか。見てますか。奥さんが食堂で一所懸命料理を作って、体の調子が悪くて、旦那さんが配達専門やって、でも奥さんが病気になって、営業できてないんですよ。そういう実態ってのは、課長さん方みんな分かってるのかい。もう少しね、距離を縮めなさい。距離を。実態を見なさい。今江差がどんな、どうなっているのか。今頑張ってる人に一生懸命ね、温かい気持ちを差し伸べてやらなかったらね、駄目だと思いますよ。その先何があるんですか。今頑張ってる、なんとか経営続けてくれ。商売やってくれ。そういう気持ちを持ってもらいたいと思いますよ。民間の事業者にとってはですね、人件費補助というのは、最大の有利制度なんです。多額の税金を投入した事業でですね、そういう民間個人の経営店舗を圧迫するようなことはですね、私は議員として認めませんよ。何度も質問してまいりますよ、このことに関しては。そのことを肝にちゃんと銘じてもらいたいと思います。さらにですね、この機構、3,270万補助金です。例えば、こういう考えはないと思いますけど、売れても売れなくても、また観光客が来ても来なくても、固定収入が得られるというようなですね、他人任せ、殿様商売は絶対あってはなりません。この機構、累積赤字が発生した場合、誰が責任を取るんですか。累積赤字が発生した場合、誰が責任取るんですか。そこをちゃんと認識してもらいたい。次年度以降ですね、このみらい機構のですね、今年度まだ途中ですから、それは8月時点で大体どういうふうになってますというのでよろしいですから、数字はいいです。来年度以降、こういう事業をやってですね、ここを基にして、かもめ島を中心としてね、江差町は考えていくんだというような、もしそういう強いですね、考え方があったら答弁願いたいと思います。

(議長)

はい、町長。

「町長」

室井議員からの3問目、北海道江差観光みらい機構運営支援に対するご質問にお答えいたします。

機構への支援として補助金並びに人件費に関して、議員が先ほど述べられたとおりで相違ございません。また、私自身、5年間この職について、街中を歩いて見えてくるのは、町内事業者の皆様が厳しい経営環境の中で、必死にご商売をされているということでございます。そういった前提でまた個人経営店舗を圧迫する事業は慎むべきとのご指摘でありますので、機構の3つの柱となっています事業のうち、アンテナショップぷらっと江差の運営について、ご答弁を申し上げます。

多額の補助金を投入して個人経営店舗を圧迫する事業を慎むべきという点に加え、経営戦略を持ちながらの店舗運営をとというご指摘でございました。ぷらっと江差の目指す経営は、江差町内に人、物、金の流れを生み出し、地域の稼ぐ力を引き出す主体となることとでございます。販売品の大半は町内の生産者や事業者でありますし、こういった皆様にお声掛けをしながら新たな特産品の開発もサポートする中で、町民の皆様が外貨を稼げるような仕組みを増やしていきながら、少しずつではありますが、観光で町民が経済的に潤うためのハブとなる展開をしてみたいと考えております。

飲食部門に関しましては、利用する材料を可能な限り江差の個人や企業の生產品や加工品、また特色ある店舗とするため、日本遺産や日本でもっとも美しい村連合各地の特産品等、ぷらっと江差で提供する意義、ストーリーを明確にするよう指示しておりますし、観光客のニーズに応えるよう4時までとしているところでございます。

いずれにいたしましても、差別や特色を打ち出しており、民間個人経営の皆様を圧迫する運営は考えておりませんし、店舗運営従事者に対しましても接客対応をはじめ、新たな商品開発に一層取り組むよう指導してまいります。

最後に現在の経営状況と次年度の事業計画についてのご質問がございました。8月末時点の販売実績ですが、4月から8月末までの5か月間を前年度と比較すると、金額で246万円、比率で16.3パーセントの増となっております。また、次年度以降の事業計画の概要についてでございますが、中長期での数字的なものは現時点ではございませんけれども、理想といたしましては先ほど示したとおり、町民が観光で潤いながらも、一方で独自商品の開発等を進めながら店舗の運営に関しましては、補助金の投入を年々減少できる経営を目指してまいりたいと考えております。

(議長)

室井議員、4番目の質問です。

「室井議員」

いや、再質問です。

(議長)

再質問、はい。

「室井議員」

時間ないからすぐ入ります。

(議長)

時間 13分。

「室井議員」

町長ね。実際にぷらっと江差、私はね、あそこのね、経営はどうかうってね、人がどうかうってという問題もありますけれども。やっぱりね、アクセスが悪い。中途半端。あのまま続けたって駄目ですよ。誰が行くんですか。お買い物したい、高齢者が行けますか、あそこまで歩いて。帰りはね、荷物をね、買い物した荷物を背負ってくるんですよ。バスありますか。場所が悪いんですよ。もっとですね、交通の事を考えながら、私はですね、今の南ふ頭に道の駅ね、持ってくる。何もね、日本一小さいって自慢することはない。日本一ユニークな道の駅を作れば良いんじゃないんですか。あの歴史を利用して、何故そういう発想になれないんですか。検討して下さい。今の道の駅海が見える。あそこに入らなくても海が見えますよ。そういうことでない。あそこの江差のかもめ島の歴史性を利用した、日本一ユニークな道の駅作るべきと私は考えますけど。これは今答弁すぐ作りますってできないと思いますけど。思いがあったらですね、あればですね答弁して下さい。無かったらいいです。

(議長)

はい、町長。

「町長」

今ぷらっと江差、あるいは観光みらい機構に関しまして、またそれに付随してですね、アクセスの問題、あるいはですね、町民が来やすい立地の問題。また、道の駅の機能、道の駅をそこに設置したらというようなご質問の趣旨だったかというふうに認識しております。まさに先ほど室井議員からの1問目のご質問にお答えしてはありますが、今、あそこの道の駅、失礼しました、海の駅開陽丸周辺、かもめ島周辺の賑わいをどうやって作っ

ていくかというような計画を立てている段階でございます。その中途の段階で今ぷらっと江差の経営をしているという難しさがあるというのをご理解頂ければと思います。先ほどの1問目のご質問で、ちょっと答弁には立ちませんでしたけれども、思いは私は政治家として、町長として、この北の江の島構想実現できなければ、私が町長やってる意味はないと思っております。そういう意味からしても、全体像をしっかりと私が胸を張って、町民の皆様、議会の皆様、そして観光客の皆様に魅力ある地域、魅力ある拠点だということを胸張って言える段階にないというふうに判断しているので、まだ少し時間がかかっているということを理解して頂きたいなと思っております。このぷらっと江差も賑わいを少しずつ作りながら、ゆくゆくは最終的には、そのかもめ島周辺の賑わいの拠点の中心となり得る、そういう拠点にして行きたいと考えております。ぜひですね、今その過程の段階にあるということをご理解いただいてですね、しっかりと北の江の島構想を、私の政治課題の大きな一つとして進めてまいりたいと考えておりますので、議員のご理解を願いたいと思います。

「室井議員」

議長いいですか。

(議長)

室井議員。

「室井議員」

町長、私も政治家ですよ。議員政治家じゃないんですか。政治家ですよ。私24年間やってきましたよ。町長は5年でしょう。政治家というのはね、トップというのはね、早く決めれば良いんですよ。やると。部下を信用してね、お前こういうことやれ、ね、俺はこういうふうに行くんだと。それだけでいいんですよ。私はそう思いますよ。時間が9分しかないもんでですね、町長ね、私はそういうことを含めて、議長第4問に入ってよろしいですか。時間が無いので。

(議長)

はい、第4問目。

「室井議員」

それで町長ですね、私は色んな事を分かって、知ってる。ある程度知って、財政の事を考えなきゃね、駄目ですよ。財政のことをね。それは、町の今ね、で、限度があるんです。そういう意味から私は財政の中長期計画どうなんだろうと。これから先どうなるんだろうということを知りたいんです。ね。質問したいと思います。

それで30年度決算、決算委員会これからありますけど、実質公債費比率16.7パー

セント、報告されております。インフラの整備、ね、生活関連事業や色んな国の政策によってですね、町の支出が増えることは私は十分理解いたします。しかしですね、実質公債費比率は単年度のみで評価されるんでなくて、3年間でどうなのかというのが実質公債費比率だと思えますね。今江差町、全道のワースト6位、イエローカードまであと1.3パーセントでしょう。いいですか。イエローカードまであと、18パーセントまで1.3パーセント、全道で財政が後ろから、最悪6位なんですよ。でもね、私はそういう中でね、いかに事業、国の制度、道の制度、いろんな制度を取り入れて、江差町を活性化するのが政治家じゃないんですか。あるお金使ってやるんだったら誰でもできるんだ。そういう事業をね、持ってくる。国に要請に行く。そういうね、パワーがなかったら政治家じゃないんじゃないんですか。私はそういうふうに思いますよ。町長はいつか私にですね、こういうふうに答弁しました。私は貯金いっぱい無くても良いと、だけど借金あまり増やしたくないだと。私同感です。町長、同感ですよ。その姿勢をやってください。ただし、一つ欠けてるところ。そういう国の補助金をいっぱい、ガバガバ持ってくるっていう、考え方が全然ない。そこはね、きちんとやってもらいたい。そうでないですか、ある補助金だけ持ってくるんだら誰でも持ってくる。新たな構想を作って、新たな補助金を持ってくるというのが政治家なんですよ。そこちゃんと答弁して下さい。

(議長)

町長。

(町長)

室井議員の4問目、財政運営の中長期の展望に関するご質問にお答えいたします。

財政の健全化の度合いを示す健全化判断比率の一つであります実質公債費比率ですが、平成30年度決算の比率は16.7パーセントとなり、前年度より1.2パーセントの上昇となっております。また、道内市町村における順位ですが、平成30年度決算の道内の比率の状況がまだ公表されておりませんので、平成29年度決算の順位になりますが、道内ワースト6位となっております。しかし、順位もさることながら、やはり16パーセント代と高い水準にあることが、財政的に問題であり、全道179市町村の平均が7.3パーセントであることを鑑みると、相当高い比率であることは事実であり、それだけ公債費が財政を圧迫していることを表していることとございます。そのような中、財政状況を踏まえた中で、ご答弁申し上げたいと思いますが、まず財政の現状と中長期的財政運営のあり方を策定し、町民にわかりやすく説明をする必要があるのではないかとのご質問でございませけれども、現在においても予算決算の状況や、健全化判断比率を町広報誌においてお知らせしているところであります。しかしながら、予算決算は基本的には単年度の予算について、何に使うか、あるいは使ったかという内容が主であることや、健全化判断比率についても決算の数値であり、過去の情報であることからすれば、財政状況が厳しいとい

っている中で、町が財政をどのように運営していくのかという方針を示すことが、今後収支バランスが均衡し、持続可能な財政を構築していく取り組みに資するものではないかと考えております。そのため、まずは3年から5年程度のスパンの中長期的な財政見通しや運営方針の策定を検討し、議会ならびに町民の皆様に向けてもその内容をお伝えしていきたいと考えておりますので、ご理解をお願いいたしたいと思っております。

また、優先事業として何を考えているのかとのご質問でございます。実質公債費比率が18パーセントを超えないようにするためには、借り入れの抑制に力点が置いていくのが余儀ないところであり、そのため事業実施するにあたっては、時には基金を取り崩すことも想定しております。しかしながら先ほど申し上げましたとおり、財政的に厳しい状況にある中、公債費の抑制と町づくりの推進をどう両立させながら、町政の舵取りを進めていかなければならないことは決して容易なことではなく、あれもこれもではなく、優先順位の選定や絞り込みをしながら、事業を実施していかなければならないものと考えております。そのようなことから、現時点で具体的な事業は明言できませんけれども、第6次総合計画と次期のマチ、ヒト、シゴト創生総合戦略が作成されますが、今後、役場庁舎内の議論や財政協議を経たうえで、町が推進していかなければならないと考えている事業、執行方針あるいは議会全員協議会等、様々な機会において皆様にお示ししていきたいと考えておりますので、ご理解願えればと思っております。

「室井議員」

一つだけ。

(議長)

3分ありますよ。室井議員。

「室井議員」

はい。あのね、町長ね。私もね、議員の立場ですよ。ね。あれもやってください、これもやってください、サービスで、これもサービスしてください。ね。そういうことだけは絶対望んでませんよ、私の主旨、基本的な考え方から、ね。どうして外貨をね、稼ぐといえますか。どうしてそういう良い制度、財政課長の今の答弁原稿だと思うけどね。もう一皮も二皮もむけなきゃ駄目だ。ね。今日の新聞見ましたか、厚沢部町長の答弁。企業誘致来るってところあるって書いてましたよね。だから住宅を建てなきゃならない。今決算委員会でガチっとやりますけど。厚沢部にはもう企業が来るってはっきり明言しているんですよ議会。そういう方向。要するに外貨を稼ぐのは、そういうことなんです。みんなね、考えましょう。みんな。副町長、あなたはそのね、責任者だぞ。ね。責任者。ね。課長方だけない、何回も言う。若い職員の意見も聞く。そして、酒飲んでざつくばらんに話したことあるんですか。飲んで話してみなさい。言うと思えますよ、こうやってやればこう

だとか。そういう雰囲気作りにね、努めてもらいたいと願ってですね、私の質問を終わらせてもらいます。

終わります。答弁要りません。

(議長)

副町長、一言答えなさい。今の質問に対して。

「室井議員」

答弁いらないうって言っているんだよ。

(議長)

1分あるって。

「町長」

質問はいいって言ってるんですよ。

(議長)

いいって、答えなさい。

今重要なこと言ってる。

はい、副町長。

「副町長」

おっしゃる通り、十分わかります。一番やっぱり居ずいのは、実質公債費比率がこういう前後するという、近隣町は一桁台でございます。そういった中での、この16.7、いわば18にどうやったらしないでやるかは、一つはまた先ほど町長が言った、財調の崩しもですね頭に入れながら、また有利な制度も取り込むと。ただ、この機会ですので言いますけども、江の島構想の全体像を示すことと、先にこの2期目に何をハード整備するのかとか、校舎の雨漏りや給食センターの建設やら色々諸々ありますんで、これらを2期照井町政、2期目の中できちっと何年度にどういったものをやるかということで進めていきたいと、このように思っております。はい。

(議長)

以上で室井議員の一般質問を終わります。